

みんなのわがままは職場を救う？！ ～「もやもや」を「わがまま」につなげよう

富永京子

kyokotom@fc.ritsumei.ac.jp

kyokotominaga.com

富永京子（とみながきょうこ）

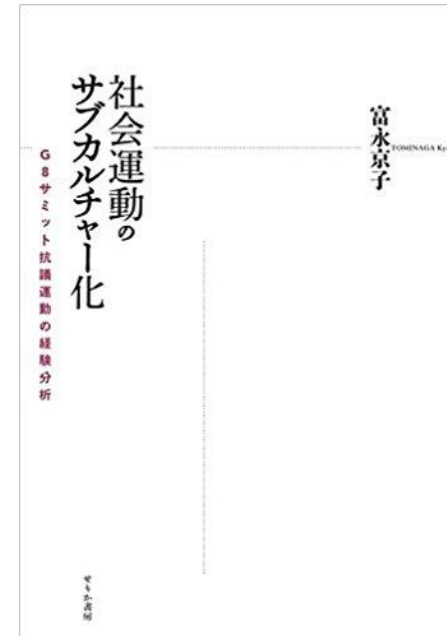
- 1986年、北海道札幌市生まれ
- 北海道大学経済学部経営学科卒、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了
- 立命館大学産業社会学部准教授（2015-）



- 小泉政権時に高校生、第一次安倍政権時に大学生。イラク戦争、非正規雇用・労働問題などを目にして生活したものの……
- 社会運動や政治に対して関心のない親
- 世代や家庭環境的に、必ずしも「社会運動」のような政治的活動に対して親しみがあるほうではない

「違和感」からはじめた運動研究

- なぜ、日本の運動は特殊な・入りづらいものとして見られてしまうのか？



報道や年長者の声に感じた違和感



こんなに政治に問題があるのに、
若者はなんで立ち上がらないんだ
！

若者の政治的無関心や政治離れ
が問題になっています.....



実際のところ、声をあげるって難しい



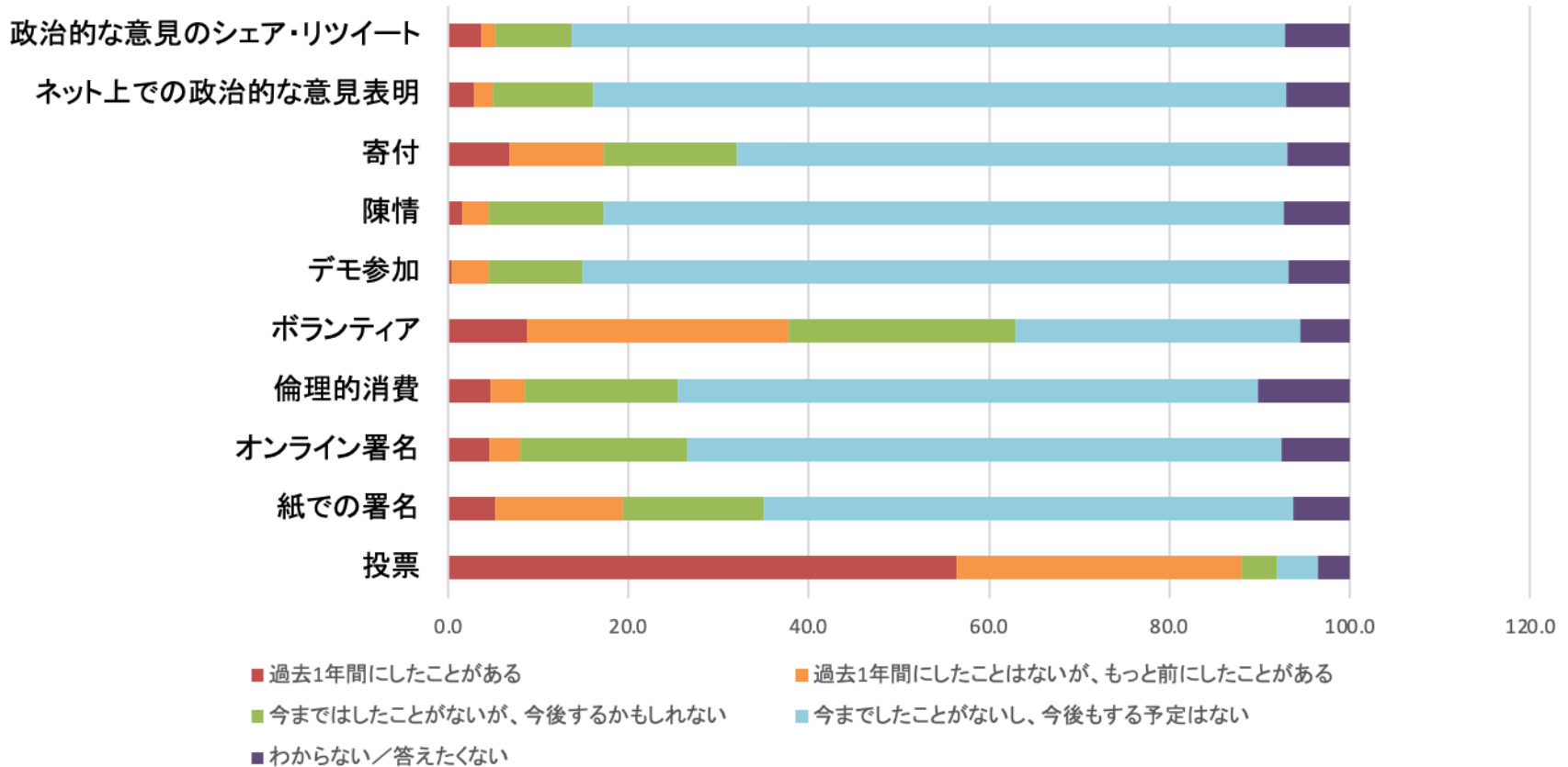
奨学金も返さなきゃいけないし、バイトもあるのに、デモなんていったら就活に差し障るかも.....

大変なことはたくさんあるけど、誰にも迷惑かけたくないから、自分で解決するほうが早いかな.....



日本人の「社会運動ぎらい」

政治参加／社会運動経験



シノドス国際社会動向研究所「生活と意識に関する調査」N=6600、インターネット経由でのリサーチパネル調査、年齢・性別・居住地域による割当法によるサンプリング。年齢は20-69歳

	20s	30s	40s	50s	60s	significance
政治的・社会的な主張を行うためのデモは評価できる	45%	46%	46%	51%	67%	***
デモは政府や政治家に自分たちの意見を伝えるための有効な手段である	53%	53%	57%	52%	66%	*
デモは社会を良い方向に変化させるための有効な手段である	44%	46%	39%	41%	53%	*
デモは社会全体に迷惑をかけている	51%	50%	47%	41%	32%	***
デモの主張は社会的に偏ったものである	61%	56%	52%	39%	31%	***
デモは社会的に容認出来ないほど過激なものである	44%	44%	31%	29%	16%	***

†: p < .10, *: p < .05, **: p < .01, ***: p < .001

Research about the acceptance of collective action conducted by Synodos lab, N=1000

	20s	30s	40s	50s	60s	significance
デモの参加者は社会のために行動しているので尊敬できる	36%	33%	32%	32%	40%	
デモの参加者は個人的なうらみ・ねたみに基づいて行動している	46%	49%	36%	32%	19%	***
デモの参加者は自己満足で行動している	63%	66%	59%	46%	34%	***
†: p < .10, *: p < .05, **: p < .01, ***: p < .001						

Research about the acceptance of collective action conducted by Synodos lab, N=1000

社会運動と個人の「わがまま」

- 他人に迷惑かけちゃいけない、どう思われるか怖い
- 自分を棚に上げるやつ、努力不足なやつ、責任転嫁するやつ、ネガティブなやつ、自己中なやつだと思われたくない

だから、何かを批判したくないし、
後ろ向きな意見を言いたくない



私なりの回答と方策

- 社会運動って「わがまま」かもしれない、
だけど社会をより良くするきっかけになる



→ 政治や社会に対する意見の「言いづらさ」を減らしていこう！

**どうすれば「わがまま」言える？
～「もやもや」を「わがまま」につなげよう**

「わがまま」言うのを阻むのは……

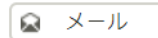
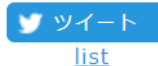
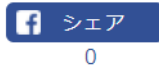
- 日本に住む人々に特有な点として、「政治的有効性感覚」が非常に低く、また、「政治」を日常離れしたものと捉えやすい

⇒ 有効性感覚を高めるために

- 成功の歴史を知る・成功の経験を積む
- 日常と社会運動を繋げて捉える

車いす客に自力でタラップ上がらせる バニラ・エア謝罪

永井啓吾 高木智子、野田佑介 2017年6月28日05時11分



木島さんがタラップを上ったときのイメージ



鹿児島県奄美市の奄美空港で今月5日、格安航空会社（LCC）バニラ・エア（本社・成田空港）の関西空港行き便を利用した半身不随で車いすの男性が、階段式のタラップを腕の力で自力で上られる事態になっていたことがわかった。バニラ・エアは「不快にさせた」と謝罪。車いすでも搭乗できるように設備を整える。

男性は大阪府豊中市のバリアフリー研究所代表、木島英登（ひでとう）さん（44）。高校時代にラグビーの練習中に脊椎（せきつい）を損傷し、車いすで生活している。木島さんは6月3日に知人5人との旅行のため、車いすで関空に向かっ

バニラエアの事例



障害者運動であり消費者運動

- バニラ・エアは木島さんに謝罪し、階段昇降機を導入。国も今年10月から、車椅子の人が航空機に搭乗するための支援設備の完備を義務づけた
- 障害者運動は障害者差別解消法など、さまざまな形で「成功」してきた活動。その背景には、過激とも言えるやり方で声を上げた人々もいる

#KuTooの事例



女性運動であり労働運動

- 日本航空（JAL）をはじめとした大企業は、高さ付きヒールの着用に関する規定を変更。国会での答弁で首相が言及するなど、大きく知られるところとなった
- 元は発起人・石川優実さんの「愚痴」。高らかに声を上げることだけが「わがまま」ではないという事例でもある

生活の場に「わがまま」を！

- 「会社にリモートワークの経費を請求したい」「姑に、子どもにお菓子をあげないように言いたい」「大学の入試制度、いきなり変わるのが納得行かない」

→ いずれも重要な社会運動の芽であり、この延長線上に「社会」「政治」に対する抗議や意思表示がある

「わがまま」 衰退社会

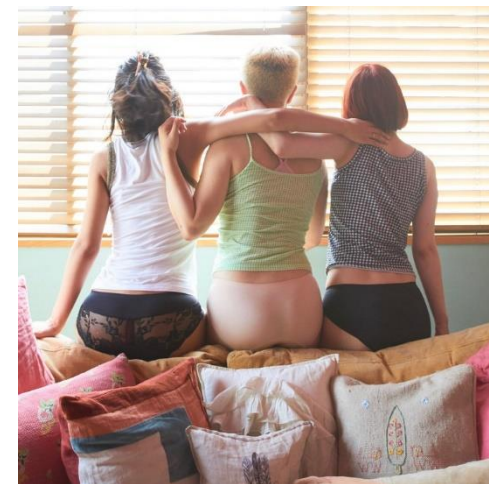
- 大学や地域の自治会、路上での抗議行動など、社会運動を目にする機会が減少した今、生活の場からほそぼそとでも社会運動の練習をすることが重要

→ 労働組合は、「わがまま」の練習として、成功体験を作り出す重要な機会

「女性」という立場から組合運動をする意義

女性運動いまむかし

- ・戦後の生活記録運動、消費者運動から、フェムテックまで
- ・特に女性誌は、1970年代から2020年に至るまで、その時々々の女性運動を数多く扱ってきた



イトセトラ

VOL.1 SPRING/SUMMER 2019

特集
責任編集 田房永子

コンビニから エロ本が なくなる日

etc.books



美容は
自尊心の筋トレ



さよなら自虐——
「呪いの言葉」を解きほぐす
心の筋トレ10ヶ条

私の救世主は私。

社会運動・組合運動の上手な休み方

- Activist Trauma Support
- フェミニズム運動から発展した「**社会運動疲れ**」 (Activist Burnout) をケアする団体
- 「社会運動疲れ」をケアするためには……

「息の長い社会運動のために」

- ①自分が問題視した事柄の中で、解決されたものを確認すること。
- ②私的な生活や趣味を「つまらないこと、くだらないこと」と思わないこと。
- ③たくさん知ること、たくさん関わることが「正義」と思いすぎないこと。全て知る必要はないし、全て関わる事はできない
- ④自分には楽しんだり、リラックスした生活を送る権利があると思うこと。
- ⑤弱さを共有でき、言葉にできないモヤモヤやストレスを少しずつ吐き出せる運動以外の場を作ること

「女性運動」は時代遅れ？

「男も女もない」時代？

「男と女以外もある」時代？

→ それでも、女性だけで集まることには、
安心して特定の事柄について話せる**セイ
フスペース**としての意義がある

女性の中の多様性を捉えるにあたって

- 結婚している／していない、性的指向のちがいがい、正規／非正規、世代・人種・国籍の異なり……

→ 「一枚岩」になりすぎず、「いろいろある」で思考停止せず

⇒ **シスターフッドとインターセクショナルリティ**の両立で、誰も置いていかない社会づくりを

**ここからは、参加者のみなさまの
お悩みとお話する形で……**

■ 「みんなのわがまま」 入門を読みました。2時間目までですが…。社会運動に参加したことがある人がもし20%増えたら、日本はどんな雰囲気になるとおもいますか。また、社会運動についてドイツ・韓国との比較データの引用がありました。もう少し熱量が近い国を挙げるとしたらどこになりますか？

- ・参加率や政治意識については、東アジア（特に台湾）と近いと言われます。

- ・参加率が20%増えると社会運動参加率は北米水準になりますが、それ以上に「社会運動を見たことがある」人の割合が増えると、市民全体の政治的有効感が上がります！

■ 社会運動の形がどんどん変わっていくように思えますが、今時だなぁと感じる社会運動はありますか。また、これからの日本はこんな社会運動が主流になる、と密かに思っているものはありますか。

- ・つい最近知ったのですが「#ハガキアクション」という、インスタグラム上で行われた動物愛護法の改正運動です。「広げれば広がるほど良い」という社会運動の原則を覆すように見えたので。

- ・どんな社会運動も参加できる人を制限するので、「主流」というものがなくなり、さまざまな運動が両立しているのは一番良いことだと思います！

■何となく「正解じゃないと言っちゃいけない雰囲気」が広がっているように感じます。特にテレビなどで「アップデートが必要な人」と言われてしまい、「どういうのが正解なんや」と悩んでいる芸能人を見ました。多様化により一般人にも様々なアップデートが求められるのではと思いますが、この雰囲気が社会運動に与える影響はあると思いますか。

- ・「アップデート」と新たな「正解」像（≡リベラルな価値観の浸透？）については、選択的夫婦別姓の運動への反応に顕著に現れていると思います。

- ・推進する側としては「選択的」なので、同姓でも別姓でもいいんだ、と主張しているのですが、おそらく反対側としては「アップデートが足りない」と言われているように感じるのではないかと……

■ ささいなことで構わないので、女性が職場で困ったという事例があれば教えてください。

■ 女性職員が増えていく中で、気をつけなければならないことなど何かあれば教えてください。

■組合のなかで「女性にどう声をかけたらいいかわからない」「大変だから女性にやっってもらうのは申し訳ない」など男性たちの悪気ない配慮で、参加の声かけがされない、女性が少ないことを仕方ないこととされている状況があります。

女性側が積極的にアピールすることが大切なのか、男性たちにどのようなことをポイントに伝えたらいいかお聞きしたいです。

- ・ 悪気ない「特別扱い」はネガティブな事例としても多く訊かれるところです。女性を「ちやほや」するのは短期的にはいいことと見られがちですが、結果として女性と男性の格差を広げる行為でもあります。

- ・ 「こんな当たり前のこともわからないの」ということすら立場が違うとわからないので、積極的に伝えていくことは重要ですが、その際、意思決定や意見収集の場に女性が複数名いるだけで言いやすさが違ってくるので、「数の力」は大事だと思います！

- ・ 「他の立場の人への遠慮」をどう乗り越える？
→ 独身女性から育児・介護をしている女性へ、
男性から女性へ……

⇒ 資源を持っている人→限られている人、あるいはマジョリティ→マイノリティへの声かけで起きやすい現象

⇒ 「人」や「属性」でなく、「悩み」をきっかけにつなぐるとよいかも？（#MeTooやフラワーデモが良い例）

■職場で「ハラスメント研修」が実施されていますが、ハラスメントの種類が多さに驚きます。コロナ禍においても、感染者への差別・医療従事者への差別など、「こんなことまで呼びかけないといけないの？」と報道を見ていて疑問に思います。その人の立場になって考えれば、簡単にわかることが、なぜわからないのだろうかと憤りを感じることも少なくありません。社会運動を通して、日本人が（日本の社会が）変わってきたな、と感じることはありますか？

・ 社会そのものが個人化・リベラル化しているという印象を強く持っています。女性であれば「妻」「母」役割からの解放やジェンダーフリーが達成されており、かつ、それが社会運動の成果である一方で、それこそが「共感」や「想像」の難しさを生んでいるのだとも思います。

・ 他者の立場がさまざまで、ある社会の「層」として存在し得ないために、自分までその人の声が届かず、知らず識らずのうちに傷つけてしまう可能性は、コロナ禍に限らず存在するのかもしれない。